

2018年	6月現在
会員数	328名
所属施設数	131ヶ所
賛助施設数	15施設

ソーシャルワーカー 協会だより

第111号

■発行：新潟県医療ソーシャルワーカー協会 ■事務局：新潟大学医歯学総合病院 ■発行：平成30年7月

巻頭言

見える化することから始めよう



新潟白根総合病院 会長 坂詰明広

2018年が始まりました。今年診療報酬・介護報酬ダブル改定の年で、会員みなさんはそれぞれご多忙のところと推察いたします。

地域包括ケアのさらなる充実にむけて、2025年まで残り7年となりました。いやいや団塊の世代の子ども達が後期高齢者を迎える時のためにもっと充実させていくのだ・・・いろいろと議論は尽きませんが、一番大事なのは自分のこととしてとらえる力が、ソーシャルワーカーにあるかどうかだと考えます。

厚生労働省は 我が事、まるごとをキャッチフレーズにしていました。うがった見方をすれば、地域住民のケア充実は、その地域で活躍するソーシャルワーク実践力に比例するといってもかまわないと考えます。

私たちは先人ソーシャルワーカーの背中を見たり、スーパービジョンを受けたりしながら目指すソーシャルワーカー像に、実践力を近づけている真最中かと思えます。そのような日常業務では、医療・介護の連携、連携、連携と念仏のように日々繰り返され、同じ文言、まるで念仏のようです。

私たちが気づくべきは、目的と手段をごちゃ混ぜにしていたひたすら、がむしゃらに退院支援、ケアプラン作成、情報提供・情報収集をする日々を過ごしていると、目標が見えづらくなる危険を伴います。だからこそ、MSW協会教育研修部がタイムリーな研修を企画し、クライアントは患者ではなく、利用者でもなくただただ地域住民であるといった簡単なことを気づかせてくれます。

研修に参画することで自らの立ち位置を確認し、自分は他の職種、ほかのソーシャルワーカーからどう見られているのか？地域住民から何を求められているか？どういった役割を期待されているのかチェックする機会を、自ら求めなければ、独りよがりのケースワークに埋没してしまいます。

協会研修なんて参加せずとも、自主活動助成金をもらって研修の企画をしているから関係ない・・・なんて考えでは視野が狭いです。自主活動助成金をもらっているからこそ、MSW協会会員に、新潟県民にどう還元するかを考えてほしいのです。

還元する方法の一つは、研修に参加して、または後輩を連れだつて研修に参加して「求めよさらば与えられん」を示すことだと考えます。参加しなければなかなか分からないMSW協会の活動を、今年は広報部理事のアイデアで、発刊回数を5回に増やします。紙面発刊を2回 MSW協会ホームページに3回掲載します。これまでタイムリーな活動状況を会員に伝えることが出来

にくかったため、広報部理事からは「紙面発刊は中止し、すべてホームページに掲載する」というドラステックな提案を受けました。

しかし、会計処理上の年度内3回発刊が難しい状況が数年以上継続していたため、ホームページ掲載と併せて皆さんに活動の見える化を実施します。

これは協会活動の見える化と、会員自身の自己覚知～自分を自分で見て聴いて感じて考えるための機会にしたいと考えます。会費を払っていて会員のメリットが分からないと言う人はたぶん、研修に参加したことの無い会員だと思います。マイクロメゾマクロのソーシャルワーク実践を知るためには、協会の理事となることが一番の近道です。是非、会員諸氏のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

平成30年度 総会・春期研修会

平成30年6月9日、ほんぼーと中央図書館にて平成29年度総会・春期研修会を開催。



平成30年度診療・介護報酬改定に関する最新情報

講師：株式会社ズケンお得意さまサポート部

副部長 岡山 幸司 氏



ひとりぼっちをつくらない

～豊中のCSWの実践～

講師：社会福祉法人豊中市社会 福祉推進室

勝部 麗子 氏

春期研修会に参加して



岩室リハビリテーション病院 北村 大樹

平成30年度春期研修会に参加させていただきました。この度の研修会では研究・活動発表と「平成30年度診療報酬・介護報酬改定に関する最新情報」「豊中市のCSWの実践」についてお話を伺うことができました。

診療報酬・介護報酬改定に関する最新情報では、私自身この春に入職したばかりでわからないことも多くあり、ソーシャルワーカーとして働いていく中で、制度や情勢について理解を深めていく必要があると痛感しました。

豊中市のCSWの実践では、クライアントだけではなく地域住民、社会資源などのストレングスにも注目し地域全体を巻き込んでアプローチを行うことの大切さを学ぶことができました。まず、個人の問題を地域全体で考えるきっかけを作り、地域住民が関心をもつことで、問題の早期発見から解決までをみんなで取り組んでいく。その結果として、人とのつながりや居場所が構築され、支えられる側だった人が個々に役割を見つけ、支える側になっていくことで1人の人をみんなで支えることのできる地域になっていくのではないかと思います。

勝部様は本人の生活から支援を組み立てることやあきらめない心を持ち、必要な資源を作り出す開発力や行動力といったソーシャルワーカーとして大切な基礎の部分をお忘れなく実践されております。私もこれからソーシャルワーカーとして成長するために、大切な基礎の部分を意識しながら日々業務に励みたいと思います。

平成30年度 春期研修会 研究・活動発表抄録(自主活動助成金報告)

今年度より研究発表としての質を高め、学会等の発表に繋がればと教育研修部において査読を開始いたしました。査読者はあくまで投稿者と対等の立場で、その原稿のよい点を積極的に見つけ、不十分な点については建設的なコメントをするなど読んだ人にわかりやすい抄録作りに、そしてその結果が発表の質を保証することになるよう努めてみました。

新潟市南部地区ソーシャルワーカー連絡会の歩み 立ち上げから10年目を迎えて

★飯塚美枝 1)、石井哲也 2)、田坂美佳 3)、五十嵐恭子 3)、鈴木裕輔 3)、池田祐希 3)、樋口協子 4)、中川裕美 4)、坂詰明広 3)

★：発表者

1) 在宅介護支援センターみずき苑、 2) 南区ケアプランセンター菜の花、 3) 新潟白根総合病院
4) 介護老人保健施設 みずき苑

アメリカのオバマ大統領の就任と初代 iPhone が発売された2008年、医療と介護の連携に深くたずさわる、地域包括支援センターあじかた小山弓子会員の発案で設立した南部地区ソーシャルワーカー連絡会（以下南部地区 SW 連絡会）。今振り返れば、大統領の就任は人種を越えた多職種協働、iPhone 発売は地域住民を巻き込んだネットワークのハブ拡大を意味していたと考える。小山氏曰く、ソーシャルワーカー（以下 SW）自身が研修に参加しないことで、自分自身を見つめ直す（自己覚知 客観視）機会を失っていると指摘、それ故に独りよがりの支援がクライアントや同僚 SW に波及する危機感から南部地区 SW 連絡会の活動がはじまった。

SW の支援力向上には内省化が必要で、事例検討を積み重ねていくことが妥当と考えた。組織運営の仕組みは、法人と地域を束ねる形でグループを作った。南部地区 SW 連絡会が10年継続しているのは、このシステムのおかげだと考える。

しかし、当初目指した事例検討会を軸とした支援力、自己内省化力の向上を目的とした活動の自己評価は芳しくはない。それぞれに企画、運営を任せたことで自主的な意識は芽生えた。しかし、設立の目的からそれを受け身の学習会が多くなってしまった。

自主活動助成金の運用は、講師謝礼に活用されることがほとんどだ。MSW 協会会員、地域住民へのフィードバックは春期研修で報告することで果たせると考えていた。しかし、近年の南部地区 SW 連絡会の発表を振り返ると、設立趣旨から離れて PDCA サイクルの do しかしていないことに気づかされた。さらに、MSW 協会活動、教育研修部企画の中堅者研修に参画する（自己研鑽としての研修参加）会員の少なさに、独りよがりの誤った支援がスタンダード化する危機感を改めて感じた。

SW をひとりの労働者としてとらえるならば、日常業務内の OJT はもちろん、土日にもソーシャルワークを学び続けることは、労働の再生産が出来にくくなると推察する。しかし、協会が開催する研修に参画した会員は、明日からまた頑張れる労働生産力の高まりを感じている会員がほとんどだと確信した。

SW がソーシャルキャピタルとして自らの立ち位置を意識づけさせるためにも、会員同士の顔と名前、役割を認識しあうことは重要だ。日常業務ネットワーク内で次世代を担う SW を育てる意識をもつことも、現役 SW の立ち位置を考える機会にもなる。ソーシャルワーカー・デイをはじめとする、MSW 協会社会活動部・教育研修部が主催・共催する研修に年に一回は参加することなど、一定の条件を助成金報告に義務づけしたらどうかと考える。研修に参画しスキルを積み重ねることで、自らの支援の内省化がもたらす価値をぜひ共有し、ソーシャルワークを説明できない SW が、感に頼った支援で満足している現状を会員全員で打破したい。※ソーシャル・キャピタル (Social capital、社会関係資本) 社会学、政治学、経済学、経営学などにおいて用いられる概念。人々の協調行動が活発化することにより社会の効率性を高めることができるという考え方のもとで、社会の信頼関係、規範、ネットワークといった社会組織の重要性を説く概念。

平成30年度 理事・運営委員役員名簿

役職・部会	理事名	所属	運営委員	所属
会 長	坂詰 明広	新潟白根総合病院		
副 会 長	新野 直紀 阿部 葉子	クラレテクノ (株) ちゅーりっぷ苑 在宅ケアクリニック川岸町		
事 務 局	志田 香奈子	新潟大学医歯学総合病院	滝波 厚子 長谷川 恭子 堀 恵子 石原 慎一 鈴木 梨紗	新潟大学医歯学総合病院 新潟大学医歯学総合病院 新潟大学医歯学総合病院 新潟大学医歯学総合病院 新潟大学医歯学総合病院
財 政	五十嵐大助 熊谷 麻美	北日本脳神経外科病院 信楽園病院	前田 美紗子 小林 孝明 阿部 香織 佐々木 洋輔	岩室リハビリテーション病院 桑名病院 下越病院 南部郷厚生病院
広 報	和田 健治 今井 一徳	新潟市地域包括支援センター姥ヶ山 上越総合病院	斎藤 健也 坂井 詩織 金子 雅 渡辺 攻	特別養護老人ホーム しなの園 新潟市地域包括支援センターふなえ 岩室リハビリテーション病院 糸魚川総合病院
社会活動部	佐藤 祐美 加藤 卓真	脳神経センター阿賀野病院 西蒲中央病院	中山 健介 渋川 健史 山崎 輝美 長谷川 紗綾子 中野 博幸	介護老人保健施設 豊浦愛広苑 済生会新潟第二病院 あがの市民病院 新潟市地域包括支援センター姥ヶ山 総合リハビリテーションセンター・みどり病院
教 育 研 修	鈴木 真 川崎 智恵 亀山 真理	桑名病院 新潟臨港病院 介護老人保健施設 エバーグリーン	渡辺 優実 梅川 望 小嶋 千恵美 池田 祐希 安田 伸悟 阿部 裕昭 興紹 みゆき 青木 麻由 牧口 花菜 河野 聖夫(トバイダー)	岩室リハビリテーション病院 西蒲中央病院 済生会新潟第二病院 新潟白根総合病院 立川メディカルセンター立川総合病院 介護老人保健施設 入舟 済生会三条病院 南浜病院 柏崎総合医療センター 新潟医療福祉大学
実 績 報 告	岩淵 英理		渡辺 浩行 木村 望 大泉 瑠理子	信楽園病院 新潟市民病院 新潟市医師会
監 事	今井 麻衣子 小池 寿美	下越病院 新津医療センター病院		
実習指導 マニュアル 作成委員会	委員長 任田 康子 副委員長 鈴木 真	新潟脳外科病院 桑名病院	河野 聖夫 川崎 智恵 丸山 百合子 岩淵 英理 新野 直紀 阿部 葉子 中野 博幸	新潟医療福祉大学 新潟臨港病院 信楽園病院 豊栄病院 クラレテクノ (株) ちゅーりっぷ苑 在宅ケアクリニック川岸町 総合リハビリテーションセンター・みどり病院